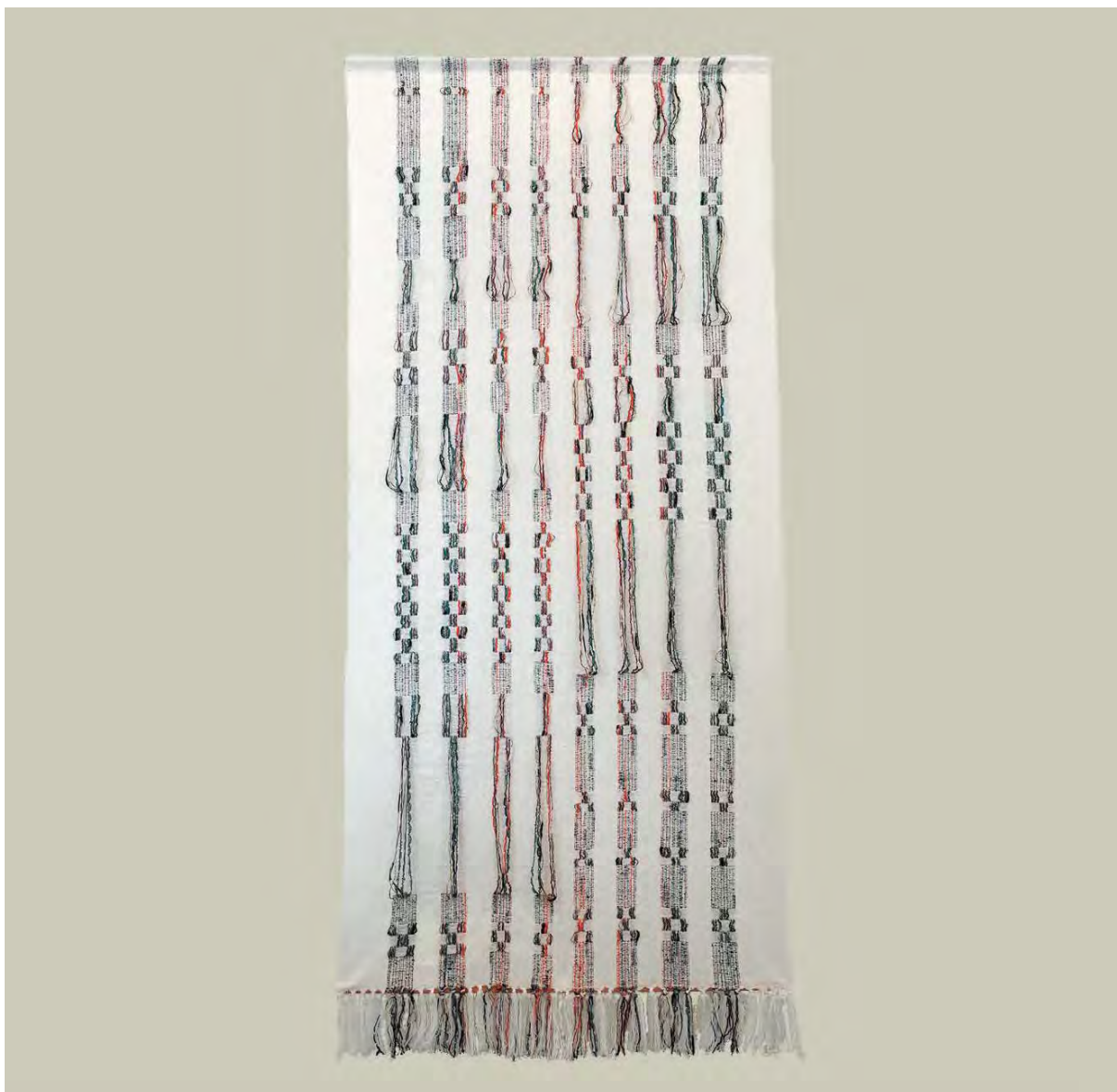


2016 vol.200 APR

SOUSAKU

創作手工芸



公益財団法人日本手工芸作家連合会

『日本手工芸作家連合会』 創立50周年に思う

公益財団法人日本手工芸作家連合会

会長 花村 邦 昭



「日本手工芸作家連合会」（平成25年に公益財団法人に認定）は、わが国伝来の手工芸文化の精髓を後世に伝えることを目的に昭和41年に設立され、爾来本年をもって創立50周年を迎えます。この間、会員の皆さまがさまざまな困難を乗り越えて今日までその高邁な理念を引き継いで来られたことに対し、この機会に改めて深甚の敬意を表したいと思います。

さて、わが国の「モノづくり」文化の基底には古くから各地に伝承されてきた手工芸文化の蓄積があります。その特徴を一言で要約するなら「マメ」に行きつくように思われます。広辞苑によれば「マメ」とは「まごころがあること。まじめ。誠実」のほか、「労苦をいとわずよく勤め働くこと」、「生活の役に立つこと。実用的」などとされています。「手マメ・足マメ・目マメ・耳マメ」という言葉がありますように、どんな細部でもけって手抜きをせず些細なことでもけって疎かにしない、粘り強い根気をもって物事を最後までやり遂げる、自分なりの創意工夫をつねに怠らない、人

であれ物であれ何事に対しても誠意を籠めて丁寧扱う、勤勉で陰日向なく仕事に真剣・真面目に取り組む、だからその人は皆に信頼される、等々がそこには含意されています。この「マメ」の文化は、わが国の「モノづくり」文化の伝統にそのまま受け継がれています。

では、今それはどうなっているのでしょうか。日常生活用品のような大量生産の分野はやむを得ないとして、「マメ」が最も要求される精密加工品の分野でもIT技術の普及もあって後発国に激しく追い上げられているのが現状です。先ほど決着をみたTPP交渉にあってもわが国が取り組むべき真の課題は目先の損得計算などではなく、わが国伝来の「モノづくり」「マメ」の文化をどう再構築するかにかこそあったはずで。なのに、現実には手軽な間に合わせ、安直な模倣、効率だけを追求する短絡思考、結論のみを急ぐ計算合理的単線思考、など即成の便宜主義ばかりが蔓延しているのではないのでしょうか。

何事にも細心の注意を払い精魂込めて物事を丁寧に仕上げる、旺盛な研究心をもってつねに新機軸を創案するなど、「マメ」の文化の源泉をここで涸らすようなことがあってはなりません。及ばずながらわが「日本手工芸作家連合会」の担うべき役割もそこにあることを改めて痛感いたします。

なお、来年の平成29年6月には、上野の東京都美術館において、盛大に「第50回記念作品展」を開催する予定にしています。過去に制作された作品でも結構ですから、できるだけ多数のみなさまが揮って力作を出展してくださいますのを楽しみにいたしております。

審査委員長 大 矢 紀（日本美術院同人）



第48回創作手工芸展は、2年後に第50回を迎えるにあたり、より厳しく、また出品者の心情にも沿うべく、襟を正し審査員全員公平に審査にあたりました。

文部科学大臣賞は佐久間恭子さんの「緩やかに巡る」が選ばれました。作者は、途絶えることのない命の営みと無限の宇宙空間の広がりの中で時の緩やかに流れ巡るイメージを直線的なデザイン構成でまとめた。白地に色系で感覚的に表現され、デザインとの調和がとれた落着きのあるセンスの良い作品となっています。（田口 義明）

東京都議会議長賞は原浩子さんの「オリエントからの風」が選ばれました。上品な色系と端正な針目により、爽やかな「オリエントからの風」が感じられる。

区限刺繍のハーダンガー刺繍、アッシジ刺繍、アジュール刺繍の技の結実と、図柄の空間と刺繍部分のバランスの妙による、品格高い作品。

（水上 嘉代子）

大妻コタカ賞は青木悦子さんの「日月長し」が選ばれました。日月の下に「壺の中では万事太平」の古事にちなみ、めでたい「亀甲文様」で壺を満たすというユニークなデザインの発想と、津軽・南部伝統のこぎん指しを融合させた、巧みな技と構成力が高く評価されました。

（鶴岡 真弓）

公益財団法人日本手工芸作家連合会会長賞は田中ひとみさんの「年輪・（十二年の思い）」が選ばれました。「巡る歳月の平穏を祈る作者の思いが籠められた“十二支曼荼羅”です。多彩な技法の駆使、配色の妙、バランスのとれた構

図、作品としても見事な出来栄です」

（花村 邦昭）

審査委員長賞は柳下美恵子さんの「桜を愛し母国を誇りに思うころ」が選ばれました。サクラ前線がニュースになる頃は只々恋人に会うような感じで人々は待ちこがれます。この作品は二曲屏風の大作で花びらは繊細で、すばらしく見た人々がこれぞ日本の桜だと思わないのでしょうか、労作であり華やきの作品です。

（大矢 紀）

奨励賞は4名で、「おもいで」池田きみ子さんのキルトは従来のキルトの感じと違い図柄がなつかしく楽しい。「勢い」石田則子さんの勧進大相撲の図を見ますと江戸時代の『谷風』を思わせまた行司を配し、さながら相撲曼陀羅を思わせる作品である。「森のクリスマス」小澤盛二さんの作品は、材料の木片が建築や建具等でロスになったものをこのように幼児だけでなく大人でも楽しく素晴らしい作品に仕上げて嬉しい。「表情」石瀬華子さんの作品は一見デッサンの様に見えるが、よくよく見ると線の一本一本が細い糸で刺繍されてよりデリカシーな作品である。

佳作、技術賞、新人賞の作品も上位の作品とほんのわずか紙一重の作品であるが、その中から数点ピックアップしてみたい。佳作「煌めきの彼方へ」山村麻里さんの作品は、金を使った華やかな中にも渋い草花を表現。技術賞「おさんぽ」飯塚有葉さんの作品は白黒で象を愛らしく好感度を感じた。

新人賞「古材に魅せられて」渡邊耕雲さんの作品は、古民家を取り崩した折りに出た素材を現代によみがえらせた素晴らしい感性に敬意を表します。特別賞の中では「爽花」木村静枝さんの作品のなんとも言えぬ渋さの一点も捨てがたいものでした。

第48回創作手工芸展 受賞作品



文部科学大臣賞
「緩やかに巡る」
佐久間 恭子

この度は文部科学大臣賞という大きな賞をいただき有難うございました。

この作品のイメージコンセプトは“限りない宇宙空間の広がり、時の流れの中で緩やかに生をつなげ巡る”です。刺子織のシンプルな地に直線的なデザイン、経糸に彩りとゆとりを加え工夫することで柔らかい動きが心地よく不思議な表現となりました。これからも心地良さへの想いを自由に表現し続けられるよう精進を重ねていきたいと思います。そして公益財団法人日本手工芸作家連合会の益々のご発展を祈念致します。



東京都議会議長賞
「オリエントからの風」
原 浩子



大妻コタカ賞
「日月長し」
青木悦子



日本手工芸作家連合会会長賞
「年輪・(十二年の思い)」
田中ひとみ

審査委員長賞
「桜を愛し母国を誇りに思うころ」
柳下美恵子



奨励賞
「おもいで」
池田きみ子



奨励賞
「勢い」
石田則子



奨励賞
「森のクリスマス」
小澤盛二



奨励賞
「表情」
石瀬華子



佳作
「つむぎで遊ぶ！月と花」
永 森 みさお



佳作
「煌めきの彼方へ」
山 村 麻里子



佳作
「古より」
筒 井 真喜子

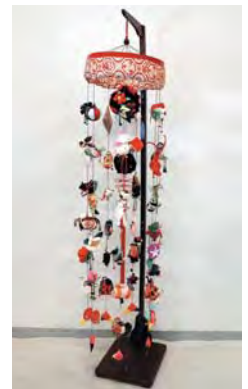


新人賞「再誕」秋 吉 敬 子

この度は、新人賞を戴きありがとうございます。
この作品は、30年前に祖母から絞りの反物をいただき、どうしても自分で染めて着られるものに仕立てたいと思っていました。2011年に大学のデザイン科に入学し、染めを学び仕上げた作品です。今回の受賞で亡くなった祖母も喜んでいと思います。ありがとうございました。

新人賞「吊るし雛」高 木 光 枝

友人に勧められ初めて参加して新人賞という大きな賞を戴き、驚きと感謝でいっぱいです。
私と縮緬の出会い、母が他界し着物でお守り袋を作ったのがきっかけで、大根袋・椿袋と最後には花嫁袋まで作る事が出来ました。これからも一層努力いたします。



新人賞「ある貴族の館」一ノ瀬 治 子

この度は新人賞を賜り感激です。
無限の美を創造する楽しさに魅せられてデコパージュの作品づくりをしてきました。
この3D作品は、原画の意図を生かしながら欧州貴族の威厳ある気品と華やかさを強調してみました。今回の受賞を機に更に精進したいと存じます。

新人賞「古材に魅せられて」渡 邊 耕 雲

見様見真似で続けて来たことが、この度は新人賞の評価を有難うございました。私の人生が終点と思いがちでした。
この賞で考え方を起点と改め、一層の努力を重ねたいと思います。受賞して良かった事は懇親会の席上、内助の功で支えてくれた妻に、ありがとうと、感謝の気持ちをスピーチ出来た事です。



新人賞「粧い」青 木 時 子

この度は、初出展で新人賞を戴き思いがけない事で大変感激しております。有難うございました。今回の作品は長女の娘を思いながら制作しました。柔らかさと華やかさ、そして日本の和服の素晴らしさを表現したいと作品を仕上げました。
桐の木と向き合い彫る作業に手が止まる時もありましたが、楽しく完成出来ました。この度の受賞を機にまた新しい気持ちで精進したいと思っております。

●国際交流「手工芸に込められた‘Japanese Spirit’」

英国オックスフォード大学ハートフォードカレッジに、大妻学院創立者・大妻コタカの名にちなんで、‘The KOTAKA ROOM’「コタカルーム」が創設されたのは、2014年5月のことであります。

2015年11月下旬、第48回創作手工芸展（公益財団法人日本手工芸作家連合会主催：会長花村邦昭大妻学院理事長）の文部科学大臣賞受賞作品他、手工芸の数々がコタカルームにて展示されました。

参加者は「日本の手工芸に込められた‘Japanese Spirit’」に触れ、感動の声が寄せられ、国際交流の実をあげることができました。

ハートフォードカレッジのウィル・ハットン学長も参加され、繊細かつ華やかで優美な作品に大変興味を示されました。



佐久間恭子氏 文部科学大臣賞受賞作品
「緩やかに巡る」



池田節子氏 特別賞受賞作品
「飛石」

●第48回創作手工芸展 授賞式・懇親会のご報告

第48回創作手工芸展の授賞式およびそれに続く懇親会は、上野公園内のレストラン精養軒で終始和気藹藹とした雰囲気のもとに執り行われました。

授賞式では、入賞者の皆様方への表彰から始まり、順次各賞の表彰に移り、最後に文部科学大臣賞受賞者を顕彰する、という順序で行われました。

審査委員長の大矢 紀 先生から、出品作のいずれをとっても甲乙つけがたいレベルに達していたとのご講評をいただき、参加者一同、半世紀近い本展の歩みの重みを実感した次第です。

最後に受賞者を代表して、文部科学大臣賞に輝かれた佐久間恭子さんからお礼の言葉が述べられ、参加者一同も、自らの創作力に一段と磨きをかけ、更なる高みを目指して頑張っていこうとの思いを新たにいたしました。



平成28度 所属作家作品展他お知らせ（前期4月～9月）

作家・講師	テ ー マ	会場(所在地)	会 期
リ ビ エ ー ル	シェーネアルバイテン作品展示	四谷三丁目東京堂(株)本店7階	4月5日～5月6日
土 井 イミ子	刺繍でつづるニードルワークスタジオ展	代官山ヒルサイドプラザB1	4月8日～10日
松 本 由伎子	松本由伎子帽子作品展	セレクトショップびマーク	4月11日～16日
福 田 り お	日本ホビーショー	東京ビッグサイト	4月28日～30日
あだち 三和子	あだち三和子エッグアート個展	代官山ヒルサイドテラスC棟ギャラリー	5月13日～15日
〃	21世紀アートボードレス展2016	丸善丸の内本店オアゾ4F	8月24日～30日
土 門 玲 子	「ワールドテキスタイルデイ」	イギリス・チェスター	5月14日
〃	「キルトフェスタ」	イギリス・マールバン	5月19日～23日
田 中 ひとみ	第24回創作手工芸梅支部	NHK福岡放送センターギャラリー2F	9月20日～25日

「内田桃子展」

ヨーロッパに伝わる刺繍作品展

ヨーロッパに伝わる刺繍作品40点が2016年1月4日～9日まで、銀座・文芸春秋画廊「ザ・セラー」にて開催（読売新聞夕刊に紹介）され、多くの皆様にご覧頂きました。

（内田桃子）



「Le Cartonnage」

手のひらサイズのカルトナージュ

ーKeiko YOKOTAー

2016年2月3日～9日まで、丸善・日本橋店3F特設会場にて展示会を開催、同時にワークショップも開催され、多くの方にご覧頂きました。

（よこた圭子）



●本連合会は、手工芸教育の普及発展を目的として、手工芸指導者の養成教育としての資格認定・免状授与を行っております。資格取得後は手工芸セミナーの指導者、社会教育における中学校・高等学校での指導者、生涯教育における指導者などの派遣を通じて、さまざまな手工芸分野で活動し、技術の向上に貢献しております。また、支部・教室で技術を習得することも出来ます。資格取得は生涯学習の宝です。

●平成27年度資格免状取得者

資格名	資格者氏名	科 目	資格名	資格者氏名	科 目
教 授	柳 下 美恵子	欧風刺繍	高等科	高 住 千恵美	パッチワーク
助教授	石 田 則 子	シャドーボックス	高等科	平 井 聖 美	パッチワーク
講 師	濱 田 昌 世	スモック刺繍	高等科	村 上 祐 子	フラワーデザイン
講 師	鈴 木 朋 世	欧風刺繍	高等科	大 藤 玲 子	フランス刺繍
講 師	齋 藤 美代子	クロスステッチ刺繍	普通科	大 藤 玲 子	フランス刺繍
講 師	山 村 麻里子	フラワーデザイン	普通科	高 住 千恵美	パッチワーク
講 師	坂 本 智恵子	スモック刺繍	普通科	平 井 聖 美	パッチワーク
講 師	戸 谷 勝 枝	パッチワーク	普通科	村 上 祐 子	フラワーデザイン
講 師	原 浩 子	ハータンガー刺繍			

平成28年度 講習会のお知らせ（前期4月～9月）

開催日	講師名	テーマ	会場	時間
4/6(土)	神山 康子	カルトナージュ	京橋越前屋ビル	10:30～15:00
5/14(土)	福田 りお	羊毛フェルト	京橋越前屋ビル	10:30～15:00
6/11(土)	前田 智美	フェルト	京橋越前屋ビル	10:30～15:00
7/9(土)	松本 由伎子	夏の帽子	京橋越前屋ビル	10:30～15:00
9/10(土)	内田 桃子	アジュール刺繍	京橋越前屋ビル	10:30～15:00

●(公募)第49回創作手工芸展 「作品募集」のお知らせ

展覧会会期：平成28年11月9日（水）～11月15日（火）

会場：東京都美術館 ギャラリーC

募集期間：平成28年7月15日（金）～10月15日（土）

尚、8月31日（水）迄お申し込みの場合、割引特典有

作品は、未発表の手工芸作品で一人2点まで（詳細は募集要項にてお知らせいたします）。

「チャリティーバザー」同時開催

第49回創作手工芸展に於いてチャリティーバザーを開催いたしますので、会員の皆様のご参加お待ちしております。

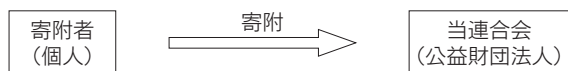
●公益法人に関するQ&A

Q：当連合会に寄附した場合の税の優遇措置を教えてください。

A：当連合会は税制上の特定公益増進法人に該当します。このような団体に寄附した場合、確定申告の際に所得控除の優遇措置を受けることが出来ます。

また、法人については、特定公益増進法人に対する寄附に適用される別枠の損金算入を利用することが出来ます。

・個人



「所得控除」の適用

寄附金額 - 2,000円(控除対象下限額) = 所得控除額
↑ 総所得金額の40%が上限額

(例)：総所得が300万円、寄附金合計額が10万円の場合、
控除額は、10万円 - 2,000円 = 98,000円
この金額は控除限度額300万円×40% = 12万円以内ですので、
98,000円全額が所得金額から控除対象になります。

●50周年記念寄附金のお願いについて

本連合会は今年12月に創立50周年を迎えます。これも偏に皆様方のご支援の賜と厚く御礼を申し上げます。つきましては、公益活動のさらなる推進のため、以下の要領にてご寄附を募らせて頂くことと致しました。何とぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

【ご寄附受付期間】平成28年4月～平成29年12月

【ご寄附金額】(個人)一口5,000円(一口以上)／(法人)同30,000円(一口以上)

【お払込方法】郵便局備付けの「払込取扱票」の(払込口座記号・番号)欄に「00100-5-85006」、(加入者名)欄に「公益財団法人日本手工芸作家連合会」とご記入ください。

【その他】ご不明な点は事務局（毎週月水金の10時から16時まで）にお電話にてお問合わせ下さい。

●次回発刊 SOUSAKU 201号は平成28年10月を予定しています。

会員の皆様の活動状況を掲載しますので、8月末までにお知らせ下さい。

●表紙作品：佐久間 恭子「緩やかに巡る」 (第48回創作手工芸展 文部科学大臣賞受賞)

編集後記

当連合会の運営は会員の皆様からの会費、ご寄附により支えられています。手工芸の世界に関わっている皆様、愛好家の皆様、これまでもご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

発行日／2016年4月吉日

発行／公益財団法人日本手工芸作家連合会
〒101-0052

東京都千代田区神田小川町3-6-10

MOビル 407号室

TEL 03-5282-5141 FAX 03-5282-5140

E-mail: info@syukogei-sakka.or.jp

URL http://www.syukogei-sakka.or.jp/